

阪神・淡路大震災と能登半島地震を報じた新聞記事を教材に、高校生が小学生に防災でできることを伝える授業が横尾小学校（須磨区横尾5）であった。児童らは記事を読んで被災者の暮らしを知り、日々の備えの大切さを学んだ。（船田翔太）

震災記事教材 高校生が授業

横尾小「自分ごとと考えて」

回目。

須磨区
須磨友が丘高校
(須磨区友が丘1)
の生徒会役員12人
が、横尾小6年の45
人に教えた。須磨友が丘高
は日本新聞協会のNIE
(教育に新聞を)実践指定
校で、横尾小での授業は3

高校生は、30年前の神戸
と昨年の能登の避難所生活
を報じた新聞記事を児童に
配り、「二つの避難所で困つ
たことは」「地震に備えて
今何をするか」と問い合わせ
た。児童は記事を読み、「ゴ
ミの発生やトイレのにお
い」「水や食料、毛布など
を用意しておく」と付箋に

書き、模造紙に貼った。
横尾小6年の土山康貴さ
ん(12)は「新聞を読んで避
難所の状況を想像し、震災
について真剣に考えた。ち
ゃんと備蓄できているか家
に帰つて確認したい」と話
した。

須磨友が丘高2年の寺
凜太郎さん(16)は、昨年
1月に石川県で砂浜の清掃
に従事した。児童は「震災
で、海水が流れ込んだら危
ない」と心配したが、寺さん
は「海水は砂浜で止まるので
安心です」と笑顔で答えた。
須磨友が丘高校は、毎年震災
に関する授業を行っている。
今年も2月に行われる

避難所に関する新聞記事
を読んで気づいたことを
発表する児童



避難所に関する新聞記事を読んで気づいたことを付箋に書き、台紙に貼り付ける児童

今年も2月に行われる

震災学習

本紙朝刊企画の「震災ダイアリー」
記事活用し防災学習



須磨・白川小5年、感想を発表し合う

阪神・淡路震災後日々を撮影した写真を毎日掲載する本紙朝刊企画「震災ダイアリー」を読み、防災学習に役立つ活動に、神戸市須磨区の白川小学校の生徒が取り組んでいる。教員が記事を毎日切り抜いて張り出し、朝や帰りの会で児童が読んだ感想を発表し合う。今後、防災学習が本格化する現4年生に切り抜きを引き継ぎ、震災30年の節目に向けて学びを深めている。

須磨・白川小5年、感想を発表し合う



須磨・白川小5年、感想を発表し合う

須磨・白川小5年、感想を発表し合う

神戸新聞2024/3/25付朝刊広域版

神戸新聞2025/2/15付朝刊神戸版

阪神・淡路大震災を知らない世代が 「語り継ぐ」

はえのをのを船山山 業国市 7 べき分生震